シリーズ
虹色のひろば

ハルビン通信

菊池　実

中国黒龍江省のハルビンでの生活（師範大学専任教師）は２年目を迎えました。とは言っても、夏休みと冬休みの間、都合約３ヶ月は一時帰国していますので実質は１年２ヶ月ほどになります。それでも勤務校であるハルビン師範大学での仕事や生活全般にも慣れてきて、日々余裕がうまれてきました。それにつれて徐々にストレスが高まってきています。

その元凶は論文を書くための史料が手元にないことです。ハルビン１年目は日本でやり残した論文を執筆していればそれでよかったのですが、２年目の今年は新たな論文、それは中国東北部に所在した関東軍関係の執筆を考えているのですが、肝心の史料は高崎の自宅に置いてあります。かなりの分量の史料をこちらに持ってくることはちょっと大変なので、一時帰国したおりに取り組まなければならないかなぁ、と考えていた矢先、朗報は届きました。

それはハルビン市社会科学院七三一問題国際研究センターから研究参加を求められたことです。同センターでは、日本の細菌戦部隊であった満州第七三一部隊に関する様々な史料を、中国国内はもとより日本、アメリカ、そして比較検討するためにドイツなどからも収集しています。こうした活動に対する協力要請、収集した史料の分類整理と分析、そして研究論文の執筆などです。願ってもいないチャンス、早速に大学の試験期間中の７月５日と７日、副所長の楊彦君さんの案内で同センターに行ってきました。

センターの陣容は「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」の金成民館長が所長を兼任、そして楊さん（黒龍江大学、ハルビン師範大学大学院修了）、モンゴル族出身の男性研究者（中国民族大学大学院博士課程修了）、若手女性研究者４名、さらに男性 OB の研究者と修士論文で「七三一部隊の細菌戦」を取り上げるハルビン師範大学大学院２年生の女子学生です。

七三一問題国際研究センター内部
（男性・楊さん、女性・大学院生）

ハルビン市社会科学院

昨年、同センターから刊行された中国語版の『侵華日軍第七三一部隊罪行実録　全60巻』(2015年)、現在史料の整理・分析が進められている『日本細菌戦档案史料集成　全145巻』(未完)、この膨大な史料群は日米の史料を中心に、中国の雑誌論文・新聞記事から構成されています。

中でも私がもっとも注目しているのは『日本関東憲兵隊報告集　全 61 巻』の存在です。これらの史料群には関東軍の部隊工事に動員された「特種工人・解放工人・一般工人」による逃亡事件などの報告多数が含まれています。これらの史料を自由に使って論文を発表してほしいとのこと、こんなうれしい申し出はありません。

このようなことから、一時帰国時においては七三一部隊の中心メンバーであった医学関係者153名の論文収集と関東軍の各種戦友会史料の収集にあたりたいと思っています。またハルビンにおいては大学授業の合間を縫って「関東軍工事に動員された特種工人」の実態解明、そのための関東憲兵隊文書の分析を行っていきたいと考えています。

先はまだまだ長いです。ハルビンからの撤退はいつ頃になるのか、上記の理由から現状ではまったく不透明になっています。